

祭りと献身

について



祭りと献身

信仰に基づく行為、あるいは単純に発見すること喜びとして、ポルトガルには数多くの訪れる理由と宗教的祝典を行う理由、そして精神的探求のための豊富な選択肢があります。

ポルトガルはヨーロッパ最古の国で、その境界は12世紀以降に定められましたが、当時ここに住んでいたムーア人から奪取した土地で構成されています。このキリスト教のレコンキスタ運動では、ポルトガルの国王は十字軍運動、特にテンプル騎士団の運動に支援されました。したがって、この国は伝統的なカトリック教の国家であり、今日でも多くの教会と宗派は国家設立におけるそれぞれの歴史的ルーツを持っています。聖母マリアへの献身は、その例の1つです。そしてここでは、聖母マリアに関わる聖堂や聖マリアへの崇拝の形を数多く見ることができます。しかし、1917年に3人の羊飼いの子供達の前に聖母マリアが姿を現したという場所**ファティマ (Fátima)** は、間違いなく、この国で最も重要な神聖な場所です。平和の都市として知られる強い精神性を持つ場所で、信者であろうとなかろうと、それに対してだれも無関心でいることはできません。

聖母マリアと他の多くの聖人達を願って、多くの形式の献身が極めて大衆的な祝宴、祭り、巡礼により表現されます。北部最大の群集が集まる場所を挙げるだけでも、ヴィアナ・ド・カステロ (**Viana do Castelo**) の**嘆きの聖母 (Senhora da Agonia)** の祝宴、ブラガ (**Braga**) 周辺の巡礼 (**ノッサ・セニョーラ・ド・サメイロ (Nossa Senhora do Sameiro)**)、**サン・ベント・ダ・ポルタ・アベルタ修道院 (São Bento da Porta Aberta)**、そして**セニョーラ・ダ・アバディア (Nossa Senhora da Abadia)**、ギマラインス (**Guimarães**) の**ノッサ・セニョーラ・ダ・ペーニャ (Nossa Senhora da Penha)** の聖堂、そして**ラメーゴ (Lamego)** の**救済の聖母教会 (Nossa Senhora dos Remédios)** などがあります。さらに南に行くと、**コインブラ (Coimbra)** の**ライニーア・サンタ祭り (Festas Rainha Santa)**、が有名です。**ノッサ・セニョーラ・ダ・ナザレ (Nossa Senhora da Nazaré)** およびヴィアナ・ド・アレンテージョ (**Viana do Alentejo**) 近くの**ノッサ・セニョーラ・ド・カボ (Nossa Senhora do Cabo)** (カボ・エスピセル (**Cabo Espichel**)、セジンプラ (**Sesimbra**))、**ノッサ・セニョーラ・デ・アイレス (Nossa Senhora de Aires)** 教会、および**ヴィラ・ヴィソーザ (Vila Viçosa)** の**ノッサ・セニョーラ・ダ・コンセイソン (Nossa Senhora da Conceição)** 教会、さらにアレンテージョ (**Alentejo**) の行進と巡礼も一見の価値があります。アルガルヴェでは、**ロウレ (Loulé)** の**マエン・ソベラナの祝宴 (Festas da Mãe Soberana)** を特に紹介したいと思います。おそらく、ファティマの南部においてもっとも宗教的な表現といえるでしょう。

これらとは別に、多くのカラフルな祭りが国内全土で開かれます。例えば**6月13日**にリスボン (**Lisboa**) で行われる**聖アントニオ (聖アンソニウス)** を祭るリスボンで開かれる祭り、および**6月24日**のポルト (**Porto**) での**サン・ジョアン (S. João)** の祭りははじめとする**人気の聖人フェスティバル**です。

実際、聖アンソニウス

は、リスボン大聖堂により祭られている教会および博物館は観光客が多く、献身の対象となっているのはリスボン内だけではありません。

さま
ざまな巡
礼ルートがポルト

ガル国内に続いていることがわかります。しかし、12世紀以降一部の重要な宗教の中心地に続く**サンティアゴ・デ・コンポステーラ (Santiago de Compostela)** に向かうルートには、ヨーロッパの文化的アイデンティティが力強く現われています。そこで、世界中か

ら訪れる巡礼者たちに加わって**ポルトガルの道** (複数のルートはありますが)
を歩き、歴史遺産を発見し、自然と接触する感覚を体験してみたいかがでしょうか。

この国の設立以来ここには多くのユダヤ人も住んでいました。つまり、彼等は国家の人口増に貢献したわけですが、スペインから追放された1492年以降からは特にその数が増加しました。今日、多くの町や都市、特に中央ポルトガルと北部のアレンテージョの境界に沿った地域で、セファルディム系ユダヤ人の存在の記録が見つかります。数百年間隠れていたその存在は、現在、国の航海術、医学、そして経済の発展に重要な貢献を果たしたコミュニティの歴史のおよび文化的遺産により明らかになっています。

ポルトガル全土に点在する教会と聖堂を訪問できます。これらは金箔工芸、タイル工芸および宗教美術のまさに博物館であり、人々の文化を真に象徴するものです。また、この国は幅広く宗教的自由を享受しているため、他の信仰にも出会うことができます。結局、宗教的祭事および献身は、旅への誘いでもあり、訪問者の精神的かつ文化的な豊かさを促進していくものなのです。

絶対のお勧め

- > 宗教的祝典が最高潮に達する 5月13日、および5月と10月の間毎月13日にファティマを訪問する。
- > ローマ帝国時代に作られた最古の国定管区であるブルガにある多くの教会や聖堂を訪問。

お役立ち情報

ファティマの聖地：www.fatima.pt

ポルトガルのユダヤ人街ネットワーク：www.redejudiariasportugal.com

行き方

ポルテラ空港（リスボン）

フランシスコ・サ・カルネイロ空港（ポルト）

ファロ空港

鉄道: www.cp.pt

コーチ - Rede Expressos: www.rede-expressos.pt